

輸入粗飼料の情勢

全 酪 連
購買生産指導部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

多くの船社が7月1日付でGRI（海上運賃一斉値上げ）を決行しました。値上げ幅は最大で\$100/コンテナとなっており、加えて原油価格の上昇を受け、E-BAF（緊急燃料調整費）として\$50-\$60/コンテナの範囲で海上運賃に上乘せられています。

海運業界ではアライアンスの再編や合併などが進み、航路・サービスの合理化が進んでいます。この影響で船腹の調整も進み、値上げの環境が整ってきたという見方もできます。現行の海上運賃は過去の推移からみても底値レベルであり、航路や船腹の調整が進むにつれ、さらなる値上げ基調となることは避けられないと考えられます。

また現在、北米西海岸の各港は混雑しており、特にシアトル港/タコマ港では船腹の予約が取りにくい状況が続いており、船積みの遅延の要因となっています。加えて、米国内のトラック事情も悪化しています。E-Log（ELECTRONIC LOG DATA）の導入以降、1日当たりの輸送時間が限られていることから、産地から各輸出業者の工場、並びに各工場から各輸出港までの輸送能力の確保が課題となっています。

LA/LB（ロサンゼルス/ロングビーチ）港では、現在、港周辺の道路の混雑を緩和することを目的として、日中にコンテナの搬出入をする際に「ピアパス」と呼ばれる課金制度が実施されています。夜間にコンテナの搬出入を誘導することを目的とした制度ですが、今年8月からこの「ピアパス」は日中・夜間問わず全日が対象となる予定です。課金の単価は減額される見込みですが、コンテナの搬出入の時間に関係なく制度の対象となることで、輸出業者のコストは上昇してくるものと思われます。

ビートパルプ

<米国産>

日本向け主力のミネソタ州及びノースダコタ州では5月20日前後で作付けが終了しました。その他の地域でも概ね5月中に作付けが終了しています。当初は、4月から5月初旬にかけての低温の影響で作付けの遅れが懸念されていましたが、その後天候は回復し作柄に大きな影響を及ぼす事態は避けることができました。現状では、初

期生育に必要な土中の水分も十分であり、例年並みの作柄を予想しています。

中国からは継続的に引き合いがありますが、米国側に供給余力がないため具体的な商談には至っていません。新穀の契約についても話は進んでおらず、米中間の通商問題の行方を懸念しつつ、その状況を見守っている状態です。

アルファルファ

ワシントン州

当地では1番刈が終了し、2番刈が始まっています。今のところ天候は良好で色目が良いものが発生しているとのこと。

今年の1番刈は、総じて見た目は良いものの、葉付きが良いものは少ないのが特徴で、全体的に成分は低め、茎も当地らしい茎太品は少なく細めの傾向です。

その要因としては、生育期に気温が一時上昇したものの、後半は冷涼な傾向にあったため、茎が太くなりにくかったと考えられています。また、収穫期においては、多くの圃場で降雨を避けるために刈り取りを遅らせたことで、成分が低い傾向になったと思われ、いわゆるプレミアム品は全体の30-40%程度と推測されています。さらには収穫期間中、風が強かったことから夜露が降りにくい状況が続き、過乾燥に陥りやすく葉崩れが起り、葉付きが良いものが少なくなりました。

産地相場はPSW産の上昇の影響と当地における高成分品・上級品の不足感から、昨年同時期に比べ\$30/トン前後上昇しており、2番刈以降の相場についても同様に堅調に推移する可能性が出てきました。



18年産ワシントン産1番刈アルファルファ 6月中旬撮影

オレゴン州

クラマスフォールズでは、1番刈はほぼ終了しています。収穫期の序盤では一部で降雨被害が出ており、全体の約30%が雨当たり、約30%が軽微な雨当たり、残りの約40%が降雨を避けられた良品と推測されています。これら良品に対しては国内酪農家及び輸出業者から非常に強い引き合いが入っており、産地価格は上昇しています。

クリスマスバレーでは、1番刈が終盤を迎えています。当地においても6月上旬と下旬に降雨が観測されており、良品に対してはクリスマスフォールズ同様、旺盛な引き合いが入っています。ワシントン産の1番刈から十分な高成分品が発生しなかったこともあって良品への需要が高まり、クリスマス・クリスマス両地域の相場は上昇している状況です。

ネバダ州／ユタ州

ネバダ州では1番刈が終了しています。当地においても収穫期に数度の降雨があったとのことで良品は限られているようで、これらの価格は他産地と同様に上昇しています。

ユタ州では1番刈の収穫は大きな降雨被害はなく終えられたとのことで、全体的に葉付きや色目も良い状態で仕上がっているようです。しかしながら、良品を求める国内酪農家を中心に引き合いが強く、産地相場は堅調に推移しています。

カリフォルニア州

カリフォルニア州南部では、現在4番刈の収穫が終盤を迎えています。わずかに発生した上級品も中東勢が積極的に買付を行っている状況です。このため産地相場は引き続き堅調に推移しています。

このような状況の中、米中の通商問題の影響として、中国の輸入関税が7月6日から25%に上昇すると言われており、特に米国の輸出関係者は神経質になっています。現状では中国向けの上級品は在庫が少ないため、関税が増加したとしても一定量の需要は続くとの見方もある一方、発生量が多い中級品以下については需要が冷え込む可能性があると言われてしています。具体的にどのような影響が出るかは様々な見方があり、今後の中国からの需要動向には今まで以上に注視が必要と言えます。

米国産チモシー

産地では収穫作業が後半を迎えています。コロンビアベースンでは約80%が刈り取りを終えており、そのうち約半分が雨当たりの被害を受けています。エレンズバーグでも収穫は後半を迎えていますが、30-40%が何らかの降雨被害を受けているようです。これらは主として6月中旬に起こった激しい降雨によるもので、この影響で酪農向けの上級品の発生量は非常に限られることになりそうです。当初は軟化すると予想されていた産地相場も、上級品においては一転して昨年並みかそれ以上の価格で堅調に推移しつつあります。一方で低級品に関しては発生量も多くなることから、相場は軟化すると予想されています。

カナダ産チモシー

クレモナ地区では、5月から6月にかけての降雨量が例年の半分程度で、生育が思わしくないようで、収量にも影響が出る恐れが出てきました。収穫作業は7月中旬頃から順次開始される見込みです。

レスブリッジ地区では、6月末から収穫が始まっていますが、春季の冷涼な気候の影響を受けて生育はやや遅れ気味となっており、7月上旬以降に収穫が本格化してくる見込みです。作付面積は17年産の良好な作柄と輸出向け及び国内向けからの安定的な需要を受け、昨年比10%ほど増えているとのこと。

スーダングラス

主産地インペリアルバレーでは1番刈が80%程度終了しています。品質については残念ながら昨年と比べると全般的に劣っており、茎のばらつきや茶葉の混入が見られるものが多く、茎細品の発生が少ない状況です。

要因としては、温暖な天候であった3月上旬に播種をした圃場では、その後の強風の影響で種子が乾燥し発芽しないものが多くなったこと、また5月にも一時気温が上昇し、水入れ後に急速に生育が進んだことで、結果的に刈り遅れ気味になった圃場が多くなったことなどが挙げられます。さらには、スーダン種子の価格の高騰による播種量の抑制も一部の要因とも考えられます。

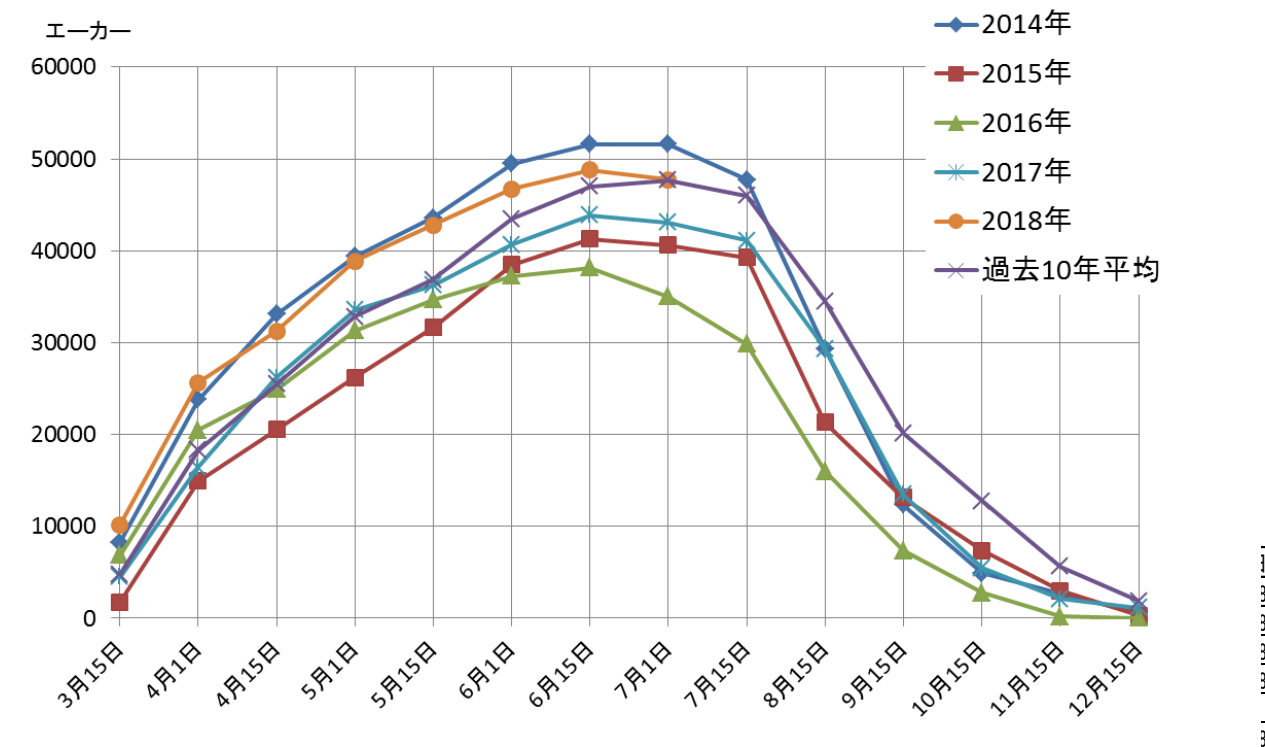
産地相場は例年に比べ静かな状況ですが、茎細品や色抜け品などのいわゆるプレミアム品の買付は激化しているようで、中級品以下との価格差が例年以上に広がっていきそうです。



18年産スーダングラス 茎細品 6月下旬撮影

また、6月は例年以上に湿度が出てきているため、今後収穫される遅播きの1番刈や早播きの2番刈などの品質に影響が出そうです。早播きの1番刈で想定よりも良品

が生産できず、さらに産地相場も一部の上級品を除き軟調な傾向にあることから、生産農家の生産意欲は減退しており、2 番刈の生産を取りやめる圃場も出始めています。



インペリアルバレー スーダン作付面積 (2018年7月1日時点) 単位：エーカー

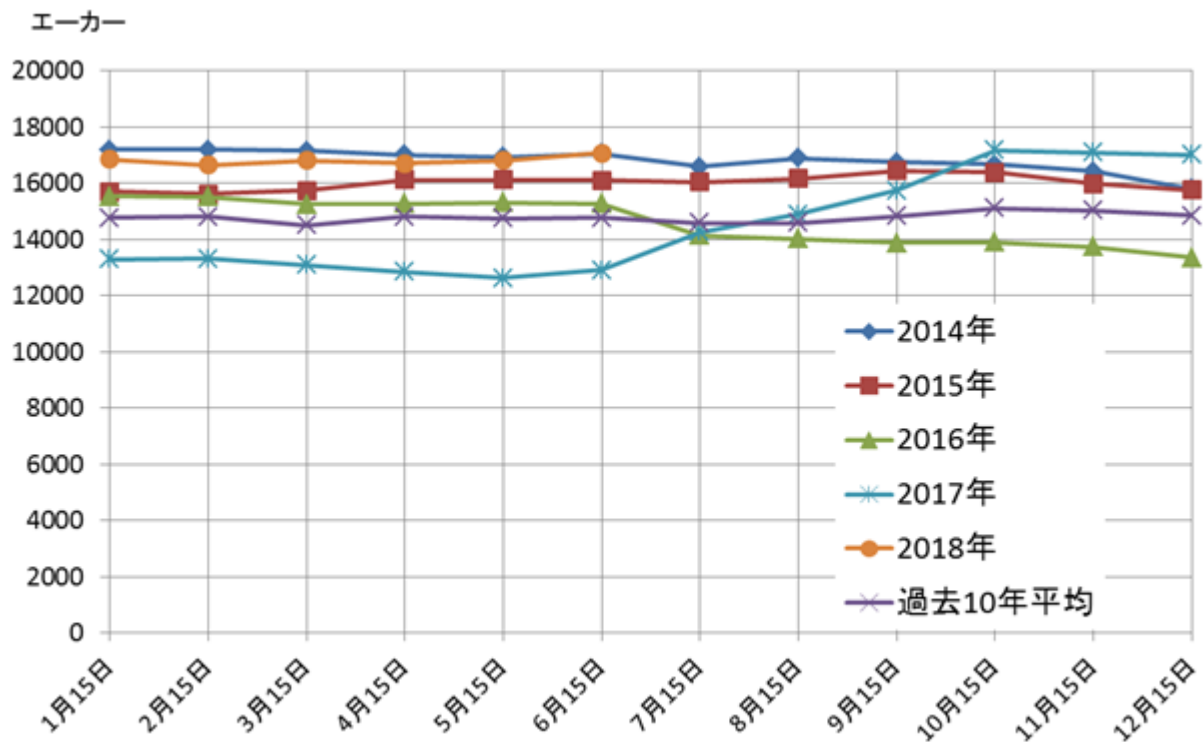
クレーングラス (クレーンは全酪連の登録商標です)

産地では2番刈を終え3番刈を待っている状況で、早い圃場では3番刈が始まっています。産地相場は引き続き旺盛な韓国からの需要により堅調に推移しています。今のところ天候は安定しているため、3番刈からも良品が多く発生すれば、産地相場も若干軟化する可能性もあります。また、相場を牽引していた韓国が新穀のチモシーの船積みを増やしていけば、クレーングラスへの引き合いが緩むことも期待できます。

今後の産地相場は、天候や作柄に加え、韓国からの需要、並びにスーダン及びチモシーの新穀相場の影響を受けて推移していくものと考えられ、未だに不透明な状況と言えます。



18年産クレイングラス 2番刈 6月中旬撮影



インペリアルバレー クレイングラス作付面積（2018年6月中旬時点）単位：エーカー

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

日本および韓国からのストロー需要は引き続き堅調に推移しています。旧穀はすべて成約済みとなっており新穀の出荷待ちとなっています。

産地では18年産の収穫作業が始まっています。今のところ天候も安定しており、単収は昨年と比べやや落ちるものの、品質的に大きな問題は発生していないようです。

豪州産オーツハイ

豪州全域において、播種時期から初期生育期にあたる5月から6月にかけて、降雨不足の時期があり放牧草の生育が不十分となったため、国内からの需要が増加してい

ます。このため、生産農家の在庫や輸出業者の余剰在庫が放出されており、2017年産の繰り越し在庫は少ない状態で新穀を迎えると予想されています。特に低級品を中心に国内需要へ対応したため、これらの産地相場は急激に上昇しています。

西豪州では播種後の降雨不足は深刻化するとの懸念がありましたが、5月後半からまとまった降雨が見られ、生育も回復しており状況は改善しつつあります。作付面積は、カノーラからの転作や中国向けなどの食用向けのオーツグレインとしての需要増の期待感もあり増加しています。しかしながら、オーツ「ハイ」として収穫されるかは収穫期である9月から10月にかけての判断となるため、作付面積の増加がオーツハイの生産増に直結するかは今のところ不透明です。

東豪州では、地域によっては未だに平年並みの生育状況に達していないところもあり、今後の降雨量を注視していく必要があります。作付面積は昨年のような良好な作柄を受けてやや増加しているようです。

以 上